



Title	歴史家E. チメッドツェレンがD. パグマドラムを解放した記述 : 1973 年に発行された『モンゴル人民共和国における女性を社会的抑圧から解放した歴史的経験』を読む
Author(s)	今岡, 良子
Citation	モンゴル研究. 2023, 32, p. 50-74
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102400
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《資料紹介》

歴史家 E. チメッドツェレンが D. パグマドラムを解放した記述

— 1973年に発行された『モンゴル人民共和国における女性を
社会的抑圧から解放した歴史的経験』を読む —

今岡 良子

はじめに

写真1 E. チメッドツェレン



1960年代に北京大学に留学する頃の写真。
モンゴル国立大学歴史学教授。女性史家。
出所：ご子息のボル氏提供

写真2 D. パグマドラム



1920年代に西欧に留学した時に撮影した写真。
出典：https://sonin.mn/news/culture/123359「1924年：
モンゴル女性連盟を設立した歴史」2021年8月2日付け。

E. チメッドツェレンとは、写真1の女性である。1924年にドルノド県に生まれ、モンゴル国立大学の歴史学博士、教授であった。D. パグマドラムとは、写真2の女性である。一般には、偉大なる作家D. ナツァグドルジの最初の妻という方が馴染みがあるだろう。1905年に、ウランバートル市マイマー・ホトに生まれ、1920年代にモンゴル女性連盟の前身、婦人教育部の最初の代表として活躍した後、ロシアやドイツに留学したが、党政府による強制帰国後、政治的粛清を受けた。「記述」とは、1973年に党の50周年記念として出版された“БНМАУ-д ЭМЭГТЭЙЧҮҮДИЙГ НИЙГМИЙН ДАРЛАЛААС ЧӨЛӨӨЛСӨН ТҮҮХЭН ТҮРШЛАГА”.У.Б. (『モンゴル人民共和国における女性を社会的抑圧から解放した歴史的経験』¹⁾ (以下『女性解放史』と略す) という著書に、E. チメッドツェレンが

1) 筆者は、E. チメッドツェレンの前述の著作などを翻訳し、解説を加える任務を負っている。藤目ゆき(大阪大学教授)を代表とする「アジア現代女性史」という研究会があり、すでに1998年から中国、ベトナム、台湾、朝鮮半島、ビルマ、

D. パグマドラムを活動家として、女性が抱える問題を解決し、解放する女性の運動の基礎を築いたと記述したことを指す。2019年に D. ニャマー²⁾や Kh. メンドサイハンらの提訴により、D. パグマドラムは公式に名誉を回復したが、まだそれは充分知られておらず、また毀損された名誉は完全に回復されたとは言えない。

E. チメッドツェレンは『女性解放史』の中で、D. パグマドラムについて5ヶ所記述している。子どもの頃から読み書きができ、女性教員として教育に関わり、モンゴルの最初の女性組織の代表となり、貧しく困っている女性に読み書きを教え、働く場所を紹介し、党の活動に招き入れ、社会に参加させたことが、関係者や著名人のインタビューや古文書館の資料を根拠に書かれている。筆者は、2023年8月に開催された第12回国際モンゴル学会議に参加し、「モンゴル女性を解放した歴史家 E. チメッドツェレンの著作の意義」³⁾というテーマで発表した。E. チメッドツェレンの記述を抜き出して紹介し、歴史や文学のモンゴルの専門家、ジェンダーの専門家と共有したいと思ったが、経済などの分科会に所属することになり、細部の議論ができなかった。この「モンゴル研究」に投稿することで、モンゴル語の原文と日本語の翻訳の両方を共有し、解説を加え、議論のプラットフォームにしたい。また、誌面の都合上、すでに「アジア現代女性史」に投稿した内容はここでは繰り返さないで、参考文献リストから参照していただきたい。

さて、本論に戻そう。E. チメッドツェレンは『女性解放史』の2章と6章で D. パグマドラムについて記述している。

第2章「モンゴル女性の民主主義」第2節「党、人民政府が勤労女性を社会に参画させた」の40から45ページにかけて、女性で最初の大員となった D. ポンツァグにインタビューし、D. パグマドラムとの関わりについて聞き書きして引用した記述である。これが最も長い。また、同じ節の59から60ページにかけて、最初に設立されたアムガランバートル・ホトの小学校の同僚の女性教員ハスナブチの記述の引用である。同節60ページには、留学生として名前が記されている。

写真3 モンゴル最初の女性の大員 D. ポンツァグ



1900年、ヘンティー県に生まれた。モンゴルで最初の女性の保健省大臣(1930～1933年)。
出典 organic Mongolia <<https://onl.sc/V6eTktA>>

インドネシアというようにアジア9ヶ国の女性の現代史が刊行され、残るはフィリピンとモンゴルとなる。

2) D. ニャマーは文芸評論家。1939年ドンドゴビ県生まれ、2017年9月に死去。国家勲章、文化功労者、詩人、医師。

3) モンゴル語で発表したので、テーマは、“Монголын эмэгтэйчүүдийг чөлөөлсөн түүхч Э.Чимэдцэрэнгийн бүтээлийн ач холбогдол”である。

第6章「モンゴルの女性組織 第1節革命初期の時代と女性組織」には4ヶ所記述されている。224から226ページにかけて、モンゴル女性連盟の前身であるモンゴル婦人教育部の最初の代表として D. パグマドラムを紹介している。P.225ページには、D. パグマドラムと同じ留学生であり、D. ナツアグドルジの研究者である B. ソドノムの記述を引用している。

特に、D. ニャマーは” Их Д.Нацагдоржийн гэргий Пагмадуламын амьдрал,аж төрөл ”『文豪ナツアグドルジの妻パグマドラムの人生』の中で、E. チメッドツェレンの D. ポンツァグに対するインタビューをほぼ全て引用している。D. ニャマーは「E. チメッドツェレンが1972年1月16日に D. ポンツァグと会い、インタビューしたが、その内容を再び、ヘンティー県出身の作家で記者でもある B. プレブドルジ(1940-2007)がウンドルハーン市でポンツァグ氏と会って対談したことを” Утга зохиол,урлаг ”紙の1983年10号に「私は偉大なるナツアグドルジのところで住んでいた」というテーマで投稿していた。この2つの資料は、10年の時を隔てたものであるが、対談の中の年月、人の名前、主な内容について一致しており、この資料は非常に価値のあるものとなっている」(Д.Нямаа 2008:f.16)と書いている。

D. ニャマーや Kh. メンドサイハンらが、100年の時が過ぎたにもかかわらず提訴し、名誉回復にこぎつけることができたのは、E. チメッドツェレンが D. ポンツァグのインタビューを『女性解放史』に掲載したからだと筆者は考えている。つまり、党の50周年記念の本『女性解放史』の中の D. ポンツァグの証言は、党によって粛清された D. パグマドラムを解放する根拠となった重要な史料と言える。

さて、そのモンゴル語の原文と日本語の翻訳を紹介したい。ただし、『女性解放史』に掲載されている順ではなく、D. パグマドラムの人生に沿って読んでいくため、次の章では D. パグマドラムの人生についてまとめておきたい。

I パグマドラムの人生

1. D. パグマドラムの生まれた家庭

D. パグマドラムの父はダムディンと言い、あだ名を大工という。

写真4 父ダムディンの写真



出典 "Д.Пагмадулам. Бүрхэг шөнийн тэргэл саран" (『D. パグマドラム。曇った夜の満月』)、2013年に放送された番組をもとにした新聞記事より引用した。

身分はタイジ⁴⁾(下級貴族で、役人)であった。セツェンハン盟(現在のヘンティー県)に住んでいたが、フレーに移住した。母はバルジッドと言う。D. ニャマーの分析では(Д.Нямаа 2008:f.51)、ダムディンとバルジッドの間には子どもがなく、パグマドラムは養女と考えられている(X.Мэндсайхан 2021 f.9)⁵⁾。兄のサンジャーも養子であるが、二人とも母国語の読み書きはもちろん、外国語も習得できる家庭に育った。

2. D. パグマドラムが育ったマイマー・ホト／アムガランバートル・ホト

図1 現在のウランバートル市内のアムガランの位置



Google map より筆者作成 中央にスフバートル広場があり、その東部にアムガランという地域がある。このあたりを革命前までマイマー・ホトと呼んだ。

図1のアムガランバートル・ホトの位置は、首都ウランバートルの中心から東に少し離れた街、D. パグマドラムが生まれた時にはマイマー・ホトと呼ばれていた。

このマイマー・ホトは、2022年に出版された”Улаанбаатар”『ウランバートル』という写真集の中で「1800年頃から、800以上の建物、4000人以上の人が住んでいたと言われている」、「漢人商人が定住化し、富裕な漢人は土塼をめぐらし、その外で一般のモンゴル人がゲルに、漢人が土作りの家で暮らしていた。フレーの中心地との関係では、朝、ここから牛やロバの荷役が商品を運び、夕方帰るという行き来があった。」(С.Мөнхжаргал 2007:f.30)と書かれている。

D. ダムディンスレンは”Их Хүрээний нэрт урчууд”『イフ・フレーの手工芸の名匠』(Д.Дамдинсүрэн 2022: f.77)という著作の中で、マイマー・ホトというテーマのページにそこには「モンゴル語と満洲

4) 清朝から与えられる封爵の内、一番下の階級。それはさらに4つに分かれていた。

5) D. パグマドラムについてインターネット上でさまざまな言説が存在する。本論は、裁判で使った資料を元に書いた Kh. メンドサイハンの著書 X.Мэндсайхан(2021) ”Пагмадулам”, Мөнхний Үсэг хэвлэлийн газар (翻訳: Kh. メンドサイハン (2021) 『パグマドラム』、永遠の文字印刷所)に依拠している。

語の読み書きができる人、弦楽器を奏で、詩やユルール（祝福の詩）やマクタール（賛美の詩）を合わせて詠みあげる知識人がいて、伝統楽器を演奏するモンゴルの有能な女性たちがあちこちにいた」と書いている。

D. ニャマーは、マイマー・ホト出身の著名人について「D. スフバータル、Ts. ダンバドルジなどの革命家から作家 M. ヤダムスレン、Sh. アヨーシ、B. ドルジスレン、バガ・ナツァグドルジ、S. エルデネ、Ch. チミド、歴史家 Sh. ナツァグドルジ、人民芸能家 T. ハンドスレン、D. ダムディンスレン、人民画家 L. ナムハイツェレン、有名な外科医師 T. シャグダルスレン、畜産指導員 T. アヨルザナー」（Д. Нямаа 2008:f.5）と名前をあげ、知識人や芸術家が生まれた町であると記述している。

このように、D. パグマドラムは、外国人が多く住み、外国との交易と外国から入ってくる文化の盛んな街で育った。

3. D. パグマドラムと最初の結婚 (богтлогдох)

D. パグマドラムは1920年に14歳の時に当時の婚姻の慣習ボグトログドフ (богтлогдох)⁶⁾によって結婚した。本人の意志ではなく、親同士が結婚を決める強制婚の1つであるが、1925年10月30日に人民政府の決定により禁止された。しかし、D. パグマドラムはそれを待つことなく、自らの意志で1921年の革命の年に実家に戻った。

4. D. パグマドラムが D. ナツァグドルジと暮らした15年⁷⁾

その後、D. ナツァグドルジと出会い、お互いの意志で1922年に結婚した。

D. ナツァグドルジは、1921年の人民革命の年から兵務省に勤め、革命家の一人 D. スフバータルの秘書となる。

1922年に D. ナツァグドルジと D. パグマドラムは、お互いの意志で結婚した。

1923年に D. パグマドラムは人民党の準党員として入党し、1925年に正式に入党した。

1924年に Ts. ダンバドルジの指導によって人民革命党中央委員会の下に女性の組織が設立され、人民革命党の宣伝部所属の婦人教育部と名づけられた。その当時、アムガラン小学校 (Д. Нямаа 2008:f.40)⁸⁾の教師だった D. パグマドラムは、婦人教育部の最初の代表として選ばれ、その組織が出版する女性向けの雑誌の最初の編集長となる。その後、第3回党大会が開かれ、D. パグマドラムは女性を代表して、D. ナツァグドルジは革命青年同盟中央委員会副議長として祝辞を述べた。

婦人教育部の代表は、半年後、ヤンジン⁹⁾に代わる。Ts. ダンバドルジが党第3回大会で中央委員会委員長になり、図書館長の職は、D. パグマドラムが継ぐことになる。

1925年の秋、2人はロシアに派遣する留学生に選ばれ、最初はペトログラード¹⁰⁾に住み、D. ナツァグドルジは軍事政治アカデミー、D. パグマドラムは東洋学大学言語学部で学んだ。

6) ボグトログドフについては、別の機会にまとめたいと思う。

7) D. パグマドラムには1905年生まれという説があるが、Kh. メンドサイハンの著書に従った。

8) 「部屋は小さく白い建物だった」と書かれている。ウランバートル市内に設立された最初の学校である。

9) N. ヤンジマーが二代目の代表を務めたのは、1年後である。

10) 現在のレニングラード。

一旦帰国後、1926年にドイツ¹¹⁾やフランスに派遣される留学生6人の中に2人とも選ばれ、最初はベルリン大学ジャーナリズム学部に着任予定だったが、その後、ライプツヒヒに移住し、ライプツヒヒ大学の東洋学者 Erich Haenisch の下で留学生生活を送ることになった。D. パグマドラムは、ライプツヒヒ女子大 (Hoehere Frauenschule) で学んだ。ここまでは順調であった。

1929年に党政府は西洋で学ぶ学生を呼び戻し、2人は留学途中で帰国した。そして1931年に離婚した。

5. D. パグマドラムと D. ナツァグドルジの晩年

1932年に D. ナツァグドルジはニーナと再婚し、娘アーナンダ・シリーが生まれるが、彼はその年の5月に投獄された¹²⁾。1936年にニーナは強制的に離婚させられた上に、娘とともにソ連に強制送還された。そして1937年に31歳の若さで謎の死を遂げた (岡田 2006:f.61)。D. パグマドラムが遺体を引き取り、埋葬した (Д.Нямаа 2008:f.39) と言われている。

D. パグマドラムも、D. ナツァグドルジが投獄された後に投獄され、釈放後、出生地アムガランバートル・ホトに帰った。その後、どのような最期を迎えたかということはよくわかっていない。D. ニャマーは、その著書中でも、「1931年以降 D. パグマドラムは消息を何一つ残していない」 (Д.Нямаа 2008:f.52) と書いている。娘の D. ツェレンドラムは「母は1938年に亡くなった」 (Д.Нямаа 2008:f.39) と書いている。そうであれば、32歳で亡くなったことになる。

このように、D. ナツァグドルジと D. パグマドラムは、31、32歳という短い人生の、少なくとも15年をともに生きたことになる。年数を重ねただけでなく、ともに新しい近代国家の建設を推進する党の重要な若手人材として活動し、ともに西洋の先進国に留学し祖国の未来を考え、ともに帰国させられた。その祖国には能力を発揮する場がなく、投獄され、それぞれ不遇の死を遂げている。

6. 名誉回復の時期

D. ナツァグドルジは、死後、1948年の第1回モンゴル作家大会で「絶大な評価が与えられ」 (岡田 2006:f.183)、個人崇拝が始まったと言われる。1956年にモンゴル人民革命党政府の主導により生誕50年祭が盛大に行われ、1963年にはウランバートル市内に銅像が建てられ、1984年に D. ナツァグドルジを讃える 'Саруул талын ерөөл' 「輝く草原の祝詞」 (С.Дашдооров 1984) という映画が作られた。10年ごとに生誕祭が行われ、「近代文学の父」として光を当てられ続けた。それでも、公式に名誉回復が行われたのは、投獄から60年後の1989年である。罪状を再審査した結果、冤罪であることが判明したため、判決は無効とし、D. ナツァグドルジは公式に名誉を回復した。公式の名誉回復を待つまでもなく、国民に愛される文学者としての地位をすでに確立していた。

D. パグマドラムについて、E. チメッドツェレンが記述した後、2007年に、文学評論家の E. ニャマーが、D. パグマドラムの名誉回復を求めて執筆している。ウヌードゥル新聞に 'Нэгэн зууны даваан

11) 当時ドイツは西側で、ヴァイマル共和制国家。1928年から経済が悪化し、1930年の世界恐慌により経済危機が起こり、1933年に A. ヒトラーが政権を握る。

12) Д.Намдаг (1988) "Шинэ Монголын шинэ театр" P.39(D. ナムダグ (1932)『新しいモンゴルの新しい劇場』P.39)「私について言うところ1932年5月16日に逮捕され、政治の重大な問題で取り調べを受けることになった。この事件を取り調べが行われた。しかしこの事件は私一人ではなく、全部で12人が関係者となった。名前をあげると、ロシア語の通訳ローロイサンボー、科学研究所の写真家ゴンボジャブ、貿易の専門家ナムスライ、コンビナートのエンジニアのホルラートはロシア人妻とともに、ガランはロシア人妻とともに、ドイツに住んでいたことからナツァグドルジ、ゴンボと私の3人であった。」

дээрээс нэхэн сурвалжлахын учир’ (100年の年月が過ぎても、伝えなければならない理由) という投稿をし、新聞紙上で D. パグマドラムについて議論されるようになった。2008年に D. ニャマーは、D. パグマドラムを直接知る関係者に会い、証言を集め、『文豪ナツアグドルジの妻パグマドラムの人生』を出版した。

2015年に歴史学者 Kh. メンドサイハンや D. ニャマーらが、D. パグマドラムの名誉回復の申請をウランバートル市スフバートル区、チンゲルテイ区、バヤンズルフ区の民事裁判所に提出した (X.Мэндсайхан2021: f.121)。Kh. メンドサイハンらは、2019年5月に高等裁判所に上告し、2019年12月に公式に名誉回復を勝ち取った。

D. ナツアグドルジに遅れること、30年の年月が経っていた。

II E. チメッドツェレンの『女性解放史』の中の5つの記述

さて、前述のように E. チメッドツェレンの『女性解放史』の中の5つの記述を D. パグマドラムの人生に沿って読んでいくが、①子どもの頃、②小学校の教師の頃、③婦人教育部の最初の代表の頃、④ロシアとドイツへの留学の頃と進めていくことにする。

(2-1) D. パグマドラムの子どもの頃について B. ソドノムの思い出の記述より引用

B. ソドノムは、D. パグマドラムの兄の友人で、D. ナツアグドルジの親友であり、共にロシアやドイツに留学し、粛清され、生涯 D. ナツアグドルジを研究した人である。

E. チメッドツェレンは、その B. ソドノムの思い出を引用し、D. パグマドラムについて子どもの頃からモンゴル文字と満洲文字の読み書きができ、中国語の会話に堪能だったと記述している。この内容は、最近、D. パグマドラムの才能を語る時に必ず引用される一文になっている。

資料1 B. ソドノムの思い出の記述

“ Пагмадулам нь цаг үедээ нилээд боловсролтой эмэгтэй байлаа. Тэрээр 5,6 настай байхдаа монгол манж бичгийг Үүлэн-аа гэдэг хүнээр гэрээр заалгаж сурсан. Хятад ярианы хэлэнд хэнээс ч дутуугүй байжээ. ”

(Э.Чимэдцэрэн,Р.225,Л.4-7)

資料1の日本語翻訳

Pagmadulam は当時としてはかなり教養のある女性であった。5、6歳でモンゴル文字と満洲文字をウーレン・アーと言う人の家で教えてもらっていた。中国語の会話は誰よりも上手だった。

(2-2) 小学校の同僚教員 D. ハスナブチのインタビューより引用

D. ハスナブチは、アムガランバートル・ホトの小学校、中学校を卒業し、最初の小学校の女性教員になり、のちにニースレル・フレーの小学校の教員になる。D. パグマドラムとは中等学校の入学が同じ時期で、教員として同僚となる。

E. チメッドツェレンが D. ハスナブチからインタビューした内容を3行目から15行目に挿入してい

るので、その同僚 D. パグマドラムの教員時代を彷彿させるものになっている。

資料2 D. ハスナブチのインタビュー

1922 年 нэгдсэн Амгаланбаатар хотын бага сургуульд эмэгтэй сурагчид 40, 1923 年 Улиастай хотын бага сургуульд эмэгтэй сурагч 11 тус тус сурч байжээ.

Гэвч хувьсгалын эхний жилүүдэд бага сургуулиуда эмэгтэй сурагчид цөөн байжээ. Учир нь эцэг эхчүүд охидоо сургуульд оруулж сургахын ач холбогдлыг тэр бүр бүрэн ойлгох явдал дутагдалтай байсантай холбоотой байжээ. (Э.Чимэдцэрэн,P.59,L.1-8)

(略)

Тэр үед оюутны сургуулийг төгссөн анхны эмэгтэй багш Д. Хаснавч бидэнд дурсан ярихдаа 11 (1921) онд оюутны сургуульд орсон. Анх 4 сарын хугацаатай байсан юм. Бид Пагмадулам Бадамринчин гурван эмэгтэй орсон, тэгээд нөгөө хоёр маань төгсөлгүй сургуулиас гарч би төгсгөн гарч Амгаланбаатар хотын бага сургуулийн багш болсон ба удалгүй нийслэл хүрээний сургуульд шилжин багшилсан. Амгаланбаатар хотын бага сургуулийн сурагчдын тэн хагас нь эмэгтэй хүүхдүүд байсан юм. Бид оюутны сургуульд сурч байхдаа 21 янчааны мөнгө цалинтай байсан. Тэгэхэд ээж минь “Эрдэм сураад бас мөнгө цалин авах нь ямар сайхан ёс вэ? Гэж хэлдэг байсан билээ” гэх зэргээр дурсан ярьж байв.

(Э.Чимэдцэрэн,P.60,L.3-15¹³⁾)

(資料2の日本語翻訳)

1922年に開設されたアムガランバートル・ホトの小学校に40人の女子生徒が、1923年にウリアスタイ・ホトの小学校に11人の女子生徒がそれぞれ学んでいた。

しかし、人民革命の初期のころ、女子生徒の数は少なかった。その理由は、当時の親が女の子を入学させ、学ばせることの意義を十分理解できていなかったことと関係していた。

(略)

当時、7、8年制の中等学校を卒業した初めての女性教師であるハスナブチが私たちに語ってくれたことによると《…私は1921年に中等学校に入ったが、当時授業期間は4ヶ月だった。パグマドラム、バダムリンチンと私の3人が中等学校に入ったが、途中で2人が学校を卒業しないで、私は卒業してからアムガランバートル・ホトの小学校に教師になり、まもなくニースレル(首都)の学校に移って教鞭をとった。当時、アムガランバートル・ホトの小学校で勉強している生徒の半分は女の子だった。私たちは学校で学んでいる時、21銀の賃金を貰っていた。すると、母が喜んで“学問を身につけるし、給与も貰えるし、なんと素晴らしい仕組みなのでしょう”と言っていた》と回想した。

(2-3) 婦人教育部の設立とその代表として選ばれた D. パグマドラムについて

E. チメッドツェレンは、第6章「モンゴルの女性組織」で女性の課題に取り組む女性組織について党の資料を使って紹介している。

13) Уүнийг зоиогч Хаснавчаас тэмдэглэж авав「このことを筆者はハスナブチから聞き取った」と脚注に書かれている。

①資料3-1 最初の女性の組織の長が D. パグマドラムであることについて

第1節「革命初期の時代と女性組織」では、最初の女性組織「婦人教育部」¹⁴⁾の設立について、1924年にモンゴル人民革命党が婦人教育部の設立を上から決定しただけでなく、女性の教員が集まって会議を開く主体的な動きがあったこと、婦人教育部のメンバーが D. パグマドラムを代表として選んだこと、それを党中央委員会が認め、党の指導と女性の自主性が呼応するように成立したことが読み取れる。これがアジアで最初の女性による女性の組織となる。

そして、その最初の代表となった P. パグマドラムが「モンゴルの女性運動の歴史に重要な地位を占める」と E. チメッドツェレンは断言している。1973年はまだ P. パグマドラムの名誉は回復しておらず、どちらかと言うと、忘れられた存在であったにも関わらず、これほどの評価を明記したことに注目したい。

資料3-1

Монголын хөдөлмөрчин эмэгтэйчүүдийг гэгээрүүлж боловсруулах, тэднийг улс төр, нийгмийн үйл хэрэгт зохион байгууллагаас ихээхэн ажил хийсэн байна.

Монгол Ардын Хувьсгалт Намын Төв Хорооны 1924 оны 3-р саын 8ны өдрийн хурлаас эмэгтэйчүүдийн байгууллагыг байгуулах шийдвэр гаргаж, түүний дүрмийг боловсруулахыг МАХН-ын Төв Хорооны сурглын хэлтэст даалгажээ.

Монгол улсын 14 он 2-р сарын 13(1924 оны 3-р сарын 19) бага сургуулийн бүсгүй багш Хаснавч, Бадамричин, Пагмадулам нарын зэрэг эмэгтэйчүүд хуралдаж МАХН-ын Төв Хорооны дэргэд эмэгтэйчүүдийн тасаг байгуулан, түүнийг Ардын Намын Төв Хорооны Суртлын Хэлтсийн дэргэдэх “Бүсгүйчүүдийг боловсруулах тасаг гэж нэрлэжээ.” Тасгийн хэрэг эрхлэгчдэд:эрхлэгч, нарийн бичгийн дарга, сургагч нижгээд, нийгэмд суртлыг дэлгэрүүлэн явагч хоёрын орон тоотойгоор байгуулснаас гадна тусгай зөвлөлийн хурлыг буй болгосон байна. Тасгийн эрхлэгчээр Пагмадулам зөвлөлийн гишүүдэд Хаснавч нарын зэрэг эмэгтэйчүүдийг сонгожээ. Монголын эмэгтэйчүүдийн байгууллагыг үндэслэгчдийн нэг бөгөөд түүний анхны дарга Дамдины Пагмадулам нь монголын эмэгтэйчүүдийн хөдөлгөөний түүхэнд чухал байр суурь эзэлдэг юм.

(Э.Чимэдцэрэн,P.224,L.11-P.225,L.3)

(資料3-1の日本語翻訳)

モンゴルの勤労女性の啓蒙、彼女達の政治・社会活動への参加に女性組織が重要な役割を果たした。

1924年3月8日に行われたモンゴル人民革命党の中央委員会の会議で女性組織を設立する決定を出し、その規則を作成することを中央委員会の宣伝部に委任した。

(旧暦)14年の2月13日(1924年3月19日)に小学校の教師であるハスナブチ、バダムリンチン、P. パグマドラムらの女性が会議を開き、モンゴル人民革命党中央委員会附属の女性

14) 女性組織は、のちに Монголын эмэгтэйчүүдийн холбоо (モンゴル女性連盟) という名前になる。1990年以降は、一党独裁が終わり、多くの政党が生まれ、人民革命党以外の政党の下に女性組織が設立される。政党と無関係の女性組織 NGO も誕生する。現在のモンゴル女性連盟は NGO である。

部を設立し、それに人民革命党宣伝部所属「婦人教育部」と名づけた。女性啓蒙・教育部を幹部として部長、事務局長、指導員各1名、宣伝員2名を定員として設立し、それ以外に特別評議会を設立した。婦人教育部長に P. パゲマドラム（作家 D. ナツアッグドルジの最初の妻、E.Ch 注）、特別評議会の会員にハスナブチらの女性たちを選んだ。モンゴルの女性組織の創設者の一人にしてその初代代表である P. パゲマドラムはモンゴルの女性運動の歴史に重要な地位を占めるのである。

②資料3-2 最初の女性組織の活動目標について

E. チメッドツェレン当時の女性組織が目標とした8つの取り組みについて紹介している。

資料3-2

Монгол эмэгтэйчүүдийн байгууллагын тэр үед тавьж байсан зорилт нь

1. Монголын бүсгүй олныг бичиг эрдэм ба намын үзэл сурталд боловсруулахыг хичээнэ.
 2. Олон бүсгүйчүүдийн дотор хэрэг явуулах хүмүүсийг бэлтгэх сургуулийг байгуулна.
 3. Бүсгүй бүгдийн хурал чуулган хуралдуулахыг хичээнэ.
 4. Бүсгүй бүхнийг улс төрд тусгай хэрэг буюу цэрэг ба эрхтэн дутуу өвчин бүхний ардад туслах хэрэгт удирдана.
 5. Үйлдвэрийн бүсгүйчүүдийг нэгтгэж, эвлэл хоршоо байгуулах ашиг тусыг хамгаална.
 6. Бүсгүйчүүдийг сургууль зэргийн эл зүйлийн боловсруулах гэгээрүүлэх газруудад оруулахыг шамдана.
 7. Бүсгүйчүүдийг олон түмний хэрэгт идэвхтэн оролцуулахыг чухал болгоно.
 8. Бүсгүйчүүдийн ариун цэвэр явдлыг хөгжүүлэн нялхсыг сувилж тэжээх ба аж ахуйг хэрхэн сайжруулан боловсруулан явуулах зэргийг хичээх явдал гэж тодорхойлжээ.
- 1924 оны 3-р сарын 25-ны өдөр хураллсан МАХН-ын Төв Хорооны тэргүүлэгчдийн хурлаар эмэгтэйчүүдийн тасгийн дүрмийг авч хэлэлцээд : “... Харьят Төв Хорооны суртлын хэлтсээс намын гишүүн бүсгүйчүүдийн тасгийн дүрэм хэмжээг батлан тогтоохыг эрж өргөснийг болгон баталбай” гэж тогтоожээ.

(Э.Чимэдцэрэн,Р.226,Л.18-Р.227,Л.5)

(資料3-2の日本語翻訳)

モンゴル女性組織が当時掲げていた目標とは：

1. モンゴルの婦人一般を読み書きや学習の場、党の教育の場で育成するよう努力すること。
2. たくさんの婦人の中から活動家を育成するための学校を設立すること。
3. 婦人の全大会や会議を開催するよう努力する。
4. 婦人の全てを政治における特別な事態、即ち兵士と身体障がい者や病人の支援活動に参加するよう指導すること。
5. 工場の労働婦人を組織し、労働組合を設立し、その権利を守ること。
6. 婦人たちを学校など教育機関に入学させることに努力する。

7. 婦人たちを社会的な活動へ積極的に参加させることを重視する。

8. 婦人たちの衛生環境を改善し、乳児の保育と暮らしの向上に努力すること¹⁵⁾。

1924年3月25日に行われたモンゴル人民革命党中央委員会幹部会議で婦人部の規則について審議し、《…中央委員会の啓蒙宣伝部が提出した党员婦人部の規則案を審議して、その規則と政策を承認した》¹⁶⁾と決定した。

(2-4) モンゴル最初の女性の大臣 D. ポンツァグの証言より

D. ポンツァグは、ヘンティー県の遊牧民の家庭で生まれ、他の女性と同じくボグトログドフという習慣で、強制結婚し、離婚後、首都フレーに来て、使用人として働いている時に人民革命に遭遇する。その時、D. パグマドラムに出会い、読み書きを習うことから始め、女性として最初の大臣(保健省)になった女性である。E. チメッドツェレンは、1972年に D. ポンツァグにライフヒストリーを聞き取り、第2章「モンゴルの女性たちが民主主義の道に(1921年～1940年)」の40から45ページにかけて、インタビューのまとめを挿入している。

ここでは、その中から、1923年頃、D. ポンツァグが D. パグマドラムと出会う頃から1925年に故郷に帰るまでを引用する。D. ポンツァグが、D. パグマドラムと D. ナツァグドルジが住む家に居候し、

写真4 モンゴル女性組織の最初のメンバーの女性たち



D. ポンツァグは後ろの列の右から2人目 (出典) E. チメッドツェレン 1973 :f.114

D. ナツァグドルジにモンゴル文字を一から教えてもらい、自分の名前にオボグ(姓)をつけて社会に参加する喜びを感じ、労働者として軍需工場で働くところなど、当時の様子が生き生きと伝わってくる内容である。そういう D. ポンツァグを通じて、婦人教育部の代表の D. パグマドラムが貧困な状態にある女性を仲間として運動に招き入れ、組織活動を進めていく様子が目に浮かぶようである。また、D. ポンツァグは D. パグマドラムとともに第三回党大会に出席し、その時に D. パグマドラムが提言した内容を述べている。

15) E. チメッドツェレンの前掲書の本文注 Бүсгүйчүүдийн санал 1925 он, №1, 7-р тал.

16) E. チメッドツェレンの前掲書の本文注 МАХН-ын ТХ АФ №1 т №2 хн №80 30-р тал.

①資料4-1 D. ポンツァグについて

初めに、E. チメッドツェレンは、革命を通じて古い因習から解放され、使用人から大臣になった D. ポンツァグを新しい時代を生きるモンゴル女性のモデルの一人として紹介している。

資料4-1

Энэ үеийн нэгэн сонин баримтыг өгүүпбэл: Урьд ядуу хоосон эрх мэдэлгүй амьдралын бүхий л хүнд бэрхийг амсаж агаад ардын хувьсгалтай золгож, эрх чөлөөгөө олж хөгжин мандсан монголын эмэгтэйчүүдийн түүхийг төлөөлөн харуулж чадах нэгэн эмэгтэйн амьдралын жишээг энд дэлгэрэнгүй өгүүлье. Энэ хүн бол зарцаас төрийн сайд хүртэл дэвшсэн Д. Пунцаг юм.

(Э. Чимэдцэрэн, P.40, L.17-23)

(資料4-1の日本語翻訳)

この頃の興味深い資料を紹介すると：以前貧困の中で暮らし、何一つ権利のない暮らしのあらゆる困難を経験していたが、人民革命に直面したことで、自由を手にし、発展開花したモンゴルの女性たちの歴史を身をもって体現することができる一人の女性の人生をここで詳しく述べよう。その人は、使用人から国の大臣に上り詰めた D. ポンツァグのことである。

②資料4-2 (P.42,L.3-P.43,L.2) について

E. チメッドツェレンは、D. ポンツァグのインタビューから、自分が社会に参加するために、D. バゲマドラムがどのようにサポートしたかを詳しく聞き出し、ここに掲載している。

資料4-2

Би нэг өдөр Өргөн чөлөөгөөр явж байгаад, нутгийн Омбын Жамсран гэдэг хүнтэй дайралдав. Түүнийг их эрт улаанд орсон хүн гэж хүмүүс ярьдаг байсан юм. Тэр хүн миний ядуу зүдүү хувцастай банхыг харж, чамд Өлзийнамсрай юм өгөхгүй байна уу ! Би чамд нэг айл олгож өгье, чи намайг дагаад яв! гэж , би түүнийг дагаад явлаа. Тэгсэн чинь намайг дагуулаад Дашдоржийн Нацагдоржийнд очсон байлаа. Тэр айл бидэнд хоол цай өглөө. Ингэтэл Жамсран маань “Пагдадуламаа ! Би хүн олж ирэв. Манай хошууны хүн юм. Өлзийнамсрайнд зарагдаад, гутал хувцас ч үгүй явна. Үүнийг нам эвлэлд элсүүлж аваач” гэв. Пагдадулам хавтастай ном авчран анкет бичих болов. “Нэр чинь хэн бэ?” гэхээр нь “Пунцаг” гэж хэлээд овог гэхээр юу хэлж байгаагийг нь мэдэхгүй байтал, Жамсран “эцгийн чинь нэр хэн бэ ? гэж байна” гэв. Би миний эцэг багад минь нас барсан гэхээр нь Долгор гэв. Ингээд л Долгорын Пунцаг гэж анкетаа бичүүлсэн юм. Ийнхүү би анх улаа анкетаа бичүүлж, нийгмийн амьдралд орох замаа эхэлж, хүн амын дансанд иргэний ёсоор бичүүлэх болсон юм даа гэж Пунцаг гуай минь ярилаа. Д.Пунцаг цааш нь ярихдаа: Би энэ үед 24 настай болж байв.

Пагдадулам над “Нөгөөдөр хуралтай”. Чи одоо намд орно. Өөрийн биеийг боловсруулна. Ном их үзнэ дээ. Гэж хэлэхэд би маш их баярлаж байж билээ. Намайг намд элсэхэд Дагдадулам,

Намын сургуулийн багш Чойсүрэн нар даасан юм. Ингээд нөгөөдөр нь (энэ нь 1924 оны 6-р сарын 1:-нд байсан юм) Сангийн Яамны дэргэдэх намын үүрийн хурал болж, намайг гишүүнд элсүүлэн юм. Дарга нь Буяаннэмэх байсан юм сан. Ингэжби намтайгаа амьдралаа холбосон юм гэж ярилаа. Ингээд бичиг үсэгт боловсрох хэрэгтэй болж, Д.Пунцаг манай шинэ үеийн уран зохиолыг үндэслэгч бичгийн их хүн Д. Нацагдоржоор монгол бичгийн цагаан толгой заалгаж түүний шавь болж гэрт нь суух болжээ. Ийнхүү Д.Пунцаг эрх чөлөөгүй ядуу зүдүү зарцын амьдралаас ардын хувьсгалтай золгожээ.

Д.Пунцаг энэ үеийнхээ амьдралыг ярихдаа: “Намайг Пагмадулам 1924 онд цэргийн гар үйлдвэрт оруулсан бөгөөд би нийгмийн амьдралд анх ингэж орсон юм. Тэр үед бид цэргийн шинель, консмол даавуун хувцас их хийдэг байлаа” гэж ярилаа.

(Э.Чимэдцэрэн, Р.42, L.3-P.43, L.2)

(資料 4-1 の日本語翻訳)

「私はある日、ウルグンという通りを歩いていたら同郷の O. ジャムスランと偶然会いました。彼女はずいぶん早くから革命運動に関わるようになったと人々が噂していた。ジャムスランは私がぼろぼろになった服を着ているのを見て「ウルジーナムスライは服をくれないの！あなたに紹介してあげる家族があるからついて来て」と言い、私は彼女について行った。私は D. ナツァグドルジの家に連れて行かれた。さらにご馳走してもらった。するとジャムスランは「パグマドラムよ！私は同郷の人を連れてきましたが、彼女はウルジーナムスライの家で使用人としてこき使われて、靴も着る服もなく苦勞しています。彼女を入党させたらどうですか」と言った。パグマドラムは表紙のついた冊子を持ってきて、必要事項を書き込み始めた。

お名前は？「ボンツァグ」と答えたがオボグを聞かれても、質問の意味が分からなかった。隣でジャムスランは「お父さんの名前を聞いているんだよ」と教えてくれた。私はお父さんが幼い時に亡くなったと答えたら「ドルゴル」と答えた。それで「ドルゴル ポンツァグ」と言うオボグと名前を書いてもらったのです。このように私は初めて自分のことを記入してもらい、社会に入る道の入り口を開くことができ、人口登録帳に国民として登録することができた」とボンツァグさんは述べた。彼女は話を続けて：「その時、私は24歳になっていた。

パグマドラムさんは私に「明後日、会議があります。これからあなたは党に入り、自分自身を成長させるようになります。勉強もたくさんしますよ」と言ったので、とても嬉しかった。私が入党することに関してパグマドラムや党大学の教師であるチョイスレン達は保証人になってくれた。そして明後日になると（これが1924年6月15日だった）財務省の党細胞会議が開かれ、入党した。細胞長はボヤンネメフであった。こうして私と党の縁が結ばれた。

そして読書きも学ばなければならなくなり、D. ポンツァグは我国の近代文学の基礎をつくった偉大な文人 D. ナツァグドルジによってモンゴル文字を一から教えてもらい、さらに D. ナツァグドルジの弟子として家に住むようになった。このようにして D. ポンツァグは権利も自由もない貧困な使用人の生活から解放され、人民革命を迎えた。

D. ポンツァグはその当時の生活を話したところ：「パグマドラムは私を1924年に軍需工場で働く機会を与えてくれて、初めて社会に参加することができた。その時、私達は軍用外套

やコムソモール¹⁷⁾ 布の服をよく作っていた」と話した。

③資料4-3 第三回党大会でスピーチをした D. パグマドラムについて、D. ポンツァグの記憶

E. チメッドツェレンは、1924年に第3回党大会に参加し、D. パグマドラムのスピーチについて述べる D. ポンツァグの記憶をここに記述している。

第3回党大会とは、S. ダンザンが E. リンチノに批判された会議、その時代の言葉で言い換えると、右翼日和見主義者を追放し、急進的な社会主義路線に変更する、革命後の政治の大きな曲がり角を迎えた会議として知られている。そこに女性が4人出席し、D. パグマドラムが中央委員会女性部代表として児童課設立や女性の赤いゲルの設立、女性に読み書きを教える、権利としての自由を与える、抑圧を下部から無くしていくという内容の発表をし、D. ポンツァグ自身も女性の識字教育の取り組みについて報告したと記述している。D. ポンツァグは1925年に母の看病のため、故郷に戻ったので、彼女の D. パグマドラムとの思い出はここまでとなる。

資料4-3

Д.Пунцаг бол МАХН-ын III их хуралд орлцсон юм. Энэ тухайгаа ярихдаа: “Би МАХН-ын III их хуралд зөвлөх эрхтэй суусан, их хуралд 4 эмэгтэй байсан шиг санаж байна. МАХН-ын III их хуралд МАХН-ын Төв Хорооны эмэгтэйчүүдийн тасгийн эрхлэгч Пагмадулам илтгэл тавьж, түүндээ: ардын хүүхдийн танхим байгуулна, эмэгтэйчүүд улаан гэр байгуулна, эмэгтэйчүүдийг бичиг үсэгт сургана, эрх чөлөөгийг нь олгоно, дарлалын дороос гаргана гэж илтгэж байна.”

Их хуралд Данзаныг их шүүмжилж байсан, түүнийг хувьдаа их хөрөнгө хураасан, аминдаа машинтай болсон гээд л их шүүмжилж байв” гэх зэргээр МАХН-ын III их хурлын тухай түүхэн чухал баримтыг ярилаа. Д.Пунцаг нам, ардын засгаас эмэгтэйчүүдийг боловсруулах талаар зохиож байсан тухайгаа бас ярилаа. Тэрээр бид (эмэгтэйчүүд Э.Ч.) ажлын дараа оройн цагаар бичиг үсгийн дугуйланд суудаг, манай дугуйланд 30-40-өөд эмэгтэйчүүд суралцаж байсан. Тэгэхэд бид том түмэнд өөхөн тос хийж, асаагаад ном үзэж шөнөжин шуугилдаж байдаг сан. Тийм учраас бидэнд Д.Нацагдож дуу хөгжим заадаг байлаа. Бидэнд “Цэнхэрлэн харагдана”, “Пионерийн дуу”, “Эмэгтэйчүүдийн дуу” зааж л байсан юм аа. Ингэж байтал ээжийн бие муу гэж хэл ирж, би тэр өвөл дахин хөдөө гарч 1925 оныг хөдөө өнгөрүүлэв.

(Э.Чимэдцэрэн, Р.43, L.3-L.29)

(資料4-3の日本語翻訳)

D. ポンツァグはモンゴル人民革命党の第3回大会に参加したことについて「私はモンゴル人民革命党の第3回大会に審議権をもって参加した。大会には4人の女性が参加したように思っています。モンゴル人民革命党の中央委員会の女性部長であるパグマドラムが発表した内容は、そこには人民子供たちの対策課を設立すること、女性向けの「赤いゲル」を設立すること、女性が読書を学ぶようにすること、又、自由を与えることや抑圧から解放することを実現するように述べた。

それから大会ではダンザンを厳しく批判していた、彼が私服を肥やした、私的に車を所有

17) コムソモールは「共産主義者同盟」のこと。

していたと厳しく批判していた」とモンゴル人民革命党の第3回大会に関する歴史的重要性をもつ証言をしたのである。また、彼女は党や人民政府が女性を教育する目的で行っていた活動についても話した。さらに、私達は(女性達のこと E.Ch)仕事が終わった後、夜間に読書を学ぶサークルに通い、全部で30から40人の女性がサークルに入っていた。その時、私達は大きい容器に灯り用の脂肪を入れ、火をつけて、一晩中その光のもとで勉強をし、楽しんで過ごしていた。又、D. ナツァグドルジは私達に音楽を教えていた。例えば、「Цэнхэрлэн харагдана(青く見える)」、「Пионерийн дуу(ピオネールの歌)」、「Эмэгтэйчүүдийн дуу(女性の歌)」などを教えていた。このように過ごしていると「母親の体調がよくない」という連絡を受けたため、再び田舎の実家へ行き、1925年はずっと田舎で過ごした。

E. チメッドツェレンは、D. ポンツァグの証言を引用し、党活動や婦人教育部長として活動する D. バグマドラムについて引用していることに注目したい。

この第3回党大会でのスピーチは、第3回党大会の議事録に掲載されている。

(2-5) D. バグマドラムが初期の女性の留学生の1人である (Э.Чимэдцэрэн 1973: f.60) という記述

D. バグマドラムは、1925年から D. ナツァグドルジとともにソ連に留学する。

E. チメッドツェレンは、D. バグマドラムが S. ヤンジマー、D. バトスフ、M. ドルマー、Ts. ザナーらと共にソ連に留学した1人であったことを資料をもとに記述している。

①資料5-1 D. バグマドラムが初期の留学生の1人であること

資料5-1

1923 онд тус улсын анхны дунд сургууль байгуулахад 5 эмэгтэй сурагчид суралцаж байв.

Ийнхүү эмэгтэй хүүхдийг бага дунд сургуульд сургаж эхэлсэн байна. 1920-иод оны дундуураас эмэгтэйчүүдийг Зөвлөлт Холбоот Улс бас Герман, Франц зэрэг европын бусад улсуудад явуулж суралцуулах болжээ. 1924 онд Монголын анхны 18 сурагчдыг ЗХУ-ын Ленинград хотноо Дорно дахины хэл бичгийн дээд сургуульд суралцуулахаар явуулсны дотор эмэгтэй Ц.Туваансүрэн оролцсон сурахаар явжээ. Түүний дараахнаас эхлэн ЗХУ-д С.Янжмаа, Д. Батсүх, М.Дулмаа, Ц.Занаа, Пагмадулам нарын зэрэг хэдэн арван эмэгтэйчүүд суралцах болжээ. 1926 онд Германд 30-аад Монгол оюутныг явуулсны 5-ны эмэгтэй (Д.Цэрэнханд, Г.Хаалаа, Юмхүү, Г.Батсүх, Д.Сүрмаажав нар) байжээ.

Энэ бүхний дүнд Монголын эмэгтэйчүүдийн мэдлэг ухамсрын хүрээ өргөжин, тэдний дунд европын боловсролтой бөгөөд Орс, Герман, Манж, Хятад зэрэг гадаад хэлийг мэддэг сэхээтнүүд ч төрөн гарч эхлэв.

(Э.Чимэдцэрэн, Р.60, L.16-L.34)

(資料5-1の日本語翻訳)

1923年にわが国最初の中学校が創立されたが、そこに5人の女子生徒が通っていた。

このように女の子を小中学校に入学させていた。1920年中頃から女性達をソ連、ドイツ、フランスなどのヨーロッパの国々へ留学させ始めた。1924年に最初のモンゴル人留学生18

人をソ連のレニングラード市の東洋言語大学へ送ったが、彼らの中に Ts. トウヴァーンスレンという1人の女性がいた。その後ソ連へ S. ヤンジマー、D. バトスフ、M. ドルマー、Ts. ザナー、パグマドラムなど多くの女性が留学した。1926年にドイツへ出発したモンゴル人留学生30人の内5人が女性(D. ツェレンハンド、G. ナーラー、ユムフー、G. バトスフ、D. ソルマージャブなど)だった。

その結果、モンゴルの女性達の教育・知識の範囲が広まり、西洋的な教育を受けたロシア語、ドイツ語、満洲語、中国語が得意な知識人も女性生まれ始めた。

②資料5-2 モンゴル女性連盟の雑誌「モンゴルの女性」から D. パグマドラムの教養について

資料5-2

Монголын ардын төрийн анхны жилүүдээс эхлэн Д.Пагмадулам эмэгтэйчүүд, залуучуудын дунд хичээнгүйлэн зүтгэж явсан, улс төрийн талаар их боловсронгуй хүн байжээ гэж хэлэхэд бүрэн болохуйц эмэгтэйн нэг байсан... Пагмадулам орос, герман, Манж, Монгол, Хятад таван хэл бичиг эзэмшсэн соёлч боловсон хүн байсан” гэж “Монголын эмэгтэйчүүд” сэтгүүлийн 1967 оны 3-рт Пагмадуламын үйл амьдралаас бичсэн зүйлээс иш татаж түүний товч намтрыг энд дурдлаа.

(Э.Чимэдцэрэн,Р.225,Л34-Р.226,Л.3)

(資料5-2の日本語翻訳)

人民政府の初期から D. パグマドラムが女性と若者の中で努力し、政治について高い知識を持っている人と言うと完全に当てはまる女性の1人だった。…パグマドラムはロシア語、ドイツ語、満洲語、モンゴル文字、中国語という5つの言語を習得した教養のある人材であった》と1967年3月付けの《モンゴルの女性》誌に書かれたパグマドラムの伝記からここに引用した。

③資料5-3 留学を経験した D. パグマドラムについて B. ソドノムの記述

資料5-3

1926 онд Дорно дахины дээд сургуульд түр суралцаж байсан ба тэгэхэд түүний нөхөр болох манай ууган зохиолч Дашдоржийн Нацагдорж цэргийн академид сурч байжээ. Үүгээр орос хэлэнд сурч, улмаар тэр жилдээ Д.Нацагдорж, Д.Пагмадулам нар Берлин хотод очиж тэнд 6 сар хиртэй герман хэл бичиг суралцаж байгаад улмаар Лейпциг хотын сэтгүүлчдийн дээд сургуульд зочин сурагчаар орж 1929 оны эцэст хүртэл суралцаж байжээ. Д. Нацагдорж, Д.Пагмадулам нарын дотно найз Б.Содном гуай дурдан ярьснаар “1930 оны зун Пагмадуламтай Улаанбаатарт уулзахад тэр бүүр европын боловсон хүүхнүүд шиг намбатай, мэдлэг сайтай ёстой л “юм үзэж нүд тайлсан хүн шиг” байж билээ. Ер нь Пагмадуламтай ярилцахад сэргэлэн цовоо, олон аашгүй, төв шулуун зантай хүн байсан” ажээ.

Д.Пагмадулам нь утга зохиолд их дуртай, монголын уран зохиолын орчуулгыг монгол-манж хэлэн дээр их уншсан хүн. Тэр эрт эдүүгээгийн эрдэм соёлын зүйлсийг шагшин ярьж, монголын эмэгтэйчүүдийг тэргүүний шинжлэх ухаан, соёлоор зэвсэглэж, төрөл бүрийн мэргэжлийн хүн болгоход шургуу ажиллах хэрэгтэй юм. Юунаас эхлэх вэ гэвэл бичиг үсгээс аваад энгийн аж амьдралтай холбож, ааш зангий нь хүртэл нөлөөлж, ажилч хичээнгүй, нямбай нягт, ариун цэвэрч, биеэ зөв бловсон авч явдаг болгох талаар үргэлж ярьдагсан.

(Э.Чимэдцэрэн,Р.225,Л.8-Л.33)

(資料 5-3 の日本語翻訳)

1926年にソ連の東洋大学で短期間勉強していたが、同時に、彼女の夫である近代文学の父 ナツァグドルジ氏が軍事大学に留学していた。そこでロシア語を取得したが、まもなくパグマドラム、ナツァグドルジらがドイツのベルリンへ行き、そこで約6ヵ月ドイツ語を勉強してから、ライプツィヒ市の記者大学へ特待生として進学し、1929年まで勉強した。D. パグマドラム、D. ナツァグドルジらの親友のソドノムが《1930年の夏にパグマドラムとウランバートル市で会った時、彼女はもうヨーロッパの教養のある女性のように落ち着いた、知識ゆたかな、本当に経験を積み見聞を広げた人となっていた。パグマドラムと話すといつも聡明で落ち着いたまっすぐな人だった》¹⁸⁾と回想している。

D. パグマドラムは文学を読むことが大好きで、モンゴルの文学作品の翻訳をモンゴル語—満洲語でたくさん読んだ人です。彼女は伝統的な文化と近代文化の優れたものについて凝みなく語り、モンゴルの女性に最先端の科学や文化によって知的な武装をさせ、様々な専門家を育てるために一生懸命務める必要がある。そのためには、まず、読み書きから始め、それを女性の日常生活と結び付け、人柄にも影響を与え、勤勉で、きっちりとし、清らかでたしなみのある人として教育することに心がけるべきと常に述べていた。

④資料 5-4 E. チメッドツェレンの D. パグマドラムについての評価

ここでは E. チメッドツェレン自身が、D. パグマドラムについて「モンゴルの女性たちの無知と貧困の苦しみから救い出し、光ある道を歩かせるために、誠心誠意努力していた人である」という評価を述べている。また、それは具体的な名前は挙げていないが、「革命初期に活躍した女性たち」という多くの女性に D. パグマドラムについて聞いてみると、彼女が女性のために誠心誠意努力していたこと、日常生活の支援もしていたことなど、興味深い話になり、自分と同じ評価をみんながしているという書き方をしている。二段目のパラグラフが最終的な評価になるが、D. パグマドラムのことを「モンゴル女性を一時啓蒙していた」人物と明言している。

資料 5-4

Д.Пагмадулам нь монголын эмэгтэйчүүдийг харанхуй бүдүүлэг, хоосон ядуугийн зовлонгоос гаргаж, гэгээн замд оруулахын төлөө чин сэтгэлээс санаа тавин зүтгэж байсан хүн юм. Тийм л учраас хувьсгалын эхэн үед эрдэм номын мөр хайж шинэ төрийн алба хэрэгт зүтгэж явсан

18) Базаргочоо. Курсийн ажил. 1971 он.

эмэгтэйчүүдтэй уулзан ярилцахад Пагмадуламын эмэгтэйчүүдийн төлөө санаа тавьж, тэдний амьдрал ахуйд нь тусалж байсан тухай олон сонин баримтыг дор бүрнээ өгүүлдэг юм. Нөгөө талаар өөрийн өргөн их мэдлэгээрээ үетэнгийнхэндээ үлгэр дууриал болж, тэднийг шинэ амьдралд хошуучилсан нь гарцаагүй бизээ.

Эд бүхнээс үндэслэж Д.Пагмадурам нь монголын эмэгтэйчүүдийн нэгэн үеийг хүмүүжүүлж байсан гэж хэлэх үндэстэй.

(Э.Чимэдцэрэн, P.226, L.3)

(資料5-4の日本語翻訳)

D. パグマドラムはモンゴルの女性たちを無知と貧困の苦しみから救い出し、光ある道を歩かせるために、誠心誠意努力していた人である。だから、革命の初期に教育を受け、新しい政府の公務に勤めていた女性たちと会って話せば、パグマドラムが女性たちのために考え、彼女らの日常生活を助けていたことについてたくさんの、色々な興味深い証言が語られる。言い換えると、自分の幅広い教養によって、同世代の人々の模範となり、女性たちを新しい生活へと先導したことは間違いない。

これら全てを根拠として、D. パグマドラムがモンゴルの女性を一つの世代を育てていたと言える。

(2-6) E. チメッドツェレンが記述した D. パグマドラム

これまで見てきた E. チメッドツェレンが『女性解放史』の中で D. パグマドラムについて記述した内容を整理すると、次のようになる。

(資料1) B. ソドノムの証言を引用して、D. パグマドラムが子どもの頃からモンゴル語や満洲語の読み書き、中国語の会話ができたこと

(資料2) D. ハスナブチにインタビューし、D. パグマドラムと教師として同僚であったこと、

(資料3) D. ハスナブチや女性教員が集まって、婦人教育部ができ、D. パグマドラムを代表として選んだこと、婦人教育部が女性を解放し、社会に参画させ、女性自身で問題を解決するための8つの活動目標を掲げたこと

(資料4) モンゴル最初の女性の大臣 D. ポンツァグにインタビューし、D. ポンツァグを事例にして D. パグマドラムが貧困女性をいかに運動に参加させたかということ、第三回党大会で D. パグマドラムが女性のために提言したこと

(資料5) B. ソドノムの記述や雑誌「モンゴルの女性」を根拠に、D. パグマドラムが留学前からモンゴル語と満洲文字の読み書きと中国語の会話ができたこと、ソ連とドイツの留学を通じて、知識を身に纏った気品のある女性になっていたこと

1973年はまだ政治的粛清が行われていた時代にもかかわらず、党が粛清した D. パグマドラムについて党の50周年記念の『女性解放史』に書くことができたのは、当事者に対するインタビューや党の史料を根拠にしたからであろう。資料3-2で、E. チメッドツェレンは、D. パグマドラムのことを「モンゴルの女性運動の歴史に重要な地位を占める」と評価しているので、『女性解放史』の中で D. パグマドラムの写真が最初に掲載されていてもおかしくない。しかし、一枚も掲載されず、その次の2代目の代表の N. ヤンジマーの写真がページ全面、3代目の S. オドバルは半分を使って挿入されているので、

編集者との間に葛藤があったのではないと思われる。

III E. チメッドツェレンが記述したこと、記述しなかったこと

(3-1) E. チメッドツェレンが記述したことと、裁判文書に書かれた粛清の理由

このように、1973年に E. チメッドツェレンが D. パゲマドラムを書いた記述を読んだ上で、2019年の名誉回復の公式文書を読んでみよう。

資料6 D. パゲマドラムの名誉を回復する公式決定の文書の一部

Сүхбаатар дүүргийн иргэний хэргийн анхан шатны шүүхийн шийдвэр

2019 оны 12 сарын 13 өдөр. Дугаар181/ШШ2019/020604 Улаанбаатар хот

Д.Пагмадуламыг 1931 оны 9 дугаар сарын 9-нд Намын төв хорооны 45 дугаар хурлын тогтоолоор:

Доод хүмүүсийг дарласан, зан авир догшин, садар самуунд их автагдсан, сургуулийн боловсролын хэрэгт хичээлгүй, ямагт хуурсан, язгуурын тайж хүний хүүхэн болох тул намын гишүүнээс хөөх тухайд хэлэлцэж, 1932 онд намын 3 дугаар цэвэрлэгээгээр түүнийг намын гишүүнээс хөөснөөс Намын 1925 оны дүрмийн 1дүгээр бүлгийн 4 дүгээр зүйлд заасны дагуу тус намын Суртлын хэлтсийн Бүсгүйчүүдийн тасагт эмэгтэйчүүдийн хэлтэс ажиллах эрхээ хасуулсан байх тул Улс төрийн хилс хэрэгт хэлмэгдэгчдийг цагаатгах, тэдэнд нөхөх олговор олгох тухай саналыг гаргаж намаас хөөсөн болох нь хэрэгт авагдсан баримтуудаар тогтоогдож байна.

Иймл Д.Пагмадуламыг хэлмэгдсэнд тооцож, цагаатгах үндэстэй.

эх сурвалж:Х.Мэндсайхан(2021) PP.123

(資料6の日本語翻訳)

スフバートル区民事裁判所の2019年12月13日付けの決定文書によると、D. パゲマドラムは、まず、1931年9月9日付け党中央委員会第45回会議の決定により、配下の者を抑圧し、凶暴な性格で、猥褻な行為をしばしば行い、学校教育活動に努力せず、貴族タイジの女となったので、党から除籍することを話し合い、1932年モンゴル人民革命党の第三回粛清によって彼女を党籍から除名したことにより、1925年の規則の第1章第4節の規定に従い、党の啓蒙部の婦人組織(女性部)で働く権利を奪われたため、政治的粛清者の名誉を回復し、彼らの損害を保障することについて申し出があり、党が粛清したことを証拠に基づいて認める。

(引用) Kh. メンドサイハン (2021) PP.123 より引用 (下線は筆者によるもの)

ここには粛清の対象とした理由として「配下の者を抑圧し、凶暴な性格で、猥褻な行為をしばしば行い、学校教育活動に努力せず、貴族タイジの女となった」と書かれている。あまりにもひどい。このように彼女の名誉を毀損する言葉が、1931年から2019年まで生きていたのである。

2023年8月のモンゴル国際学会議の直前、著者は名誉回復の裁判に取り組んだ Kh. メンドサイハンに会うことができた。彼によると、これ以外の「麻薬におぼれた」、「中国人と結婚した」という噂は、モンゴル女性連盟ですら、初代の代表が D. パグマドラムであると公言することを忌避させてきた、と言う。また、裁判も、なぜ、今頃、この問題を蒸し返すのか、という雰囲気であった、と言う。

その空気感は、日本の婦人解放運動家の伊藤野枝が、大杉栄と共に国家権力によって暴行死し、故郷で「触っても拜んでもいかん」と忌避されたことに重なるものがある。伊藤は没後100年近くからようやく再評価されるようになった。

E. チメッドツェレンが5ヶ所も記述した理由は、国家権力による根拠のない名誉毀損に向けて書かれたのではないかと考えられる。なぜ、あえてそうしたのか、という答えは、一般的な正義感だけではなく、彼女の祖父が Ts. ダムディンスレンとともにモンゴルに移住したバルガ・モンゴル人で、それが理由で父が粛清されたという、家族と彼女自身が経験した人生を丁寧に向き合うことで見えてくる。これらは時代背景を説明しなければならず、今回は誌面の都合で割愛した。

(3-2) E. チメッドツェレンの記述しなかったこと、再評価のあり方

2007年は D. ナツァグドルジ生誕100年の年で、モンゴル国営放送が放送40周年記念に、巨匠 G. ジグジスレンを監督に 'Их Нацагдорж' 「文豪ナツァグドルジ」というドラマ仕立ての特集番組を放送した。これまで容易に見ることのできなかった国立古文書館の党の資料を示しながら粛清について、正面から映像化したという点で初めての番組である。ただし、メインは D. ナツァグドルジである。D. パグマドラムの描き方については、婦人教育部の代表として社会的な活動する面が描かれず、自由で奔放、男心をくすぐる女性として演出され、粛清の理由の④「猥褻な行為を行い」を匂わす結果を招いている。晩年は借金のために中国人商人に囲われて暮らしている演出は決定的な印象を植え付けている。そのため、D. パグマドラムの汚名回復には成功していない。

しかし、2008年に D. ニャマーが同じ年に『文豪ナツァグドルジの妻パグマドラムの人生』という本を出版し、また、裁判に伴いメディアが注目する機会ごとに、D. パグマドラムの描き方に変化が現れている。

2016年に D. ナツァグドルジの生誕110周年を記念した映画や演劇が製作され、D. ナツァグドルジの著作「黒い岩」と同じ題名の映画 'Харанхуй хад' 「黒い岩」が製作され、2017年2月に劇場公開された。また演劇では、2016年11月に Sh. ギルバザル作、Ch. トゥブシン演出による 'Жаргаагүй нар' 「昇らぬ太陽」が初上映され、Ts. ホラン作、B. バータル演出による 'Монгол ардын суут' 「モンゴル人民の巨匠」という劇が公開された。この映画と演劇では、2人が粛清の対象となったことが描かれ、D. パグマドラムは教養の高い女性として描かれている。

2016年に教養番組 'Д.Пагмадулам. Бүрхэг шөнийн тэргэл саран' 「D. パグマドラム。曇った夜空の満月。」は、D. ニャマーの前述の著作をもとに構成され、D. ニャマーも出演し、S. パグマドラムがまだ名誉回復されていない不当さを訴えた。D. パグマドラムのライフヒストリーを詳しく掘り下げ、「麻薬」、「中国人と再婚」「ツェレンドラムは誰の子どもか」という世間の噂についても取り上げた。

2019年に公式に名誉回復を勝ち取った後、2020年7月のナーダムの前に、D. ナツァグドルジが座り、D. パグマドラムがそばに立つ2人の写真を元にした銅像が、エルデネト市で建立され、公開された。Montsame の2020年7月10日付けの記事「偉大なる作家 D. ナツァグドルジ、その妻 D. パグマドラム

の銅像を建立」の本文には、偉大なる作家D. ナツァグドルジ、その妻であり、女性連盟の最初の代表D. パグマドラムと書かれている。

2021年には、名誉回復運動の中心になっていたKh. メンドサイハンが、裁判資料を元に“Пагмадулам”を出版した。その後、“Зууны 100 эмэгтэйчүүд”「モンゴルの100年の歴史を創った100人の女性たち」¹⁹⁾というシリーズの番組で「光を見て、光り輝いた純白の真珠D. パグマドラム」という輝かしいテーマが付けられ、(実際には女性部の代表であるが)モンゴル女性連盟の最初の代表として紹介された。テレビ番組に登場する若者達は、彼女が満洲語、漢語、ロシア語、ドイツ語を身につけていたと聞き、1920から30年代にそんな国際的な教養人がいたことを羨望の眼差しで見ていた。

D. パグマドラムの再評価の中で、容姿、服装からプライベートな部分にも光が当たようになった。知らなかった歴史上の人物が、こんなに美人だったのか？この時代にこんなにかっこいい洋服を着ていたのか？と言う素朴な感情が湧くのはわからなくもない。しかし、ルッキズムに陥っていないだろうか。D. パグマドラムの容姿を詩に歌う著名人が多くいたとしても、男性社会に若い女性が参画すると、ちやほやされることはよくあることである。伊藤野枝は女性解放の運動の中で、結婚を否定し、奔放な女性であることを私たちは知っている。恋多き女性が女性解放運動をリードすることは、何らおかしいことではない。D. ナツァグドルジがD. パグマドラムと離婚した後、ロシア人と結婚したことと、仮に、D. パグマドラムが離婚後、中国人と結婚したとして、それに何の問題があるのだろうか。D. ナツァグドルジとロシア人の後妻との間に生まれた娘だけでなく、モンゴル人の前妻との間にも「血を分けた」娘がいた、と言う議論は、彼らを粛清したことを都合よく忘れて、ナショナリズムに陥っていないだろうか。晩年に、仮にD. ナツァグドルジが酒に溺れたとしても、同じような状況で、D. パグマドラムが麻薬に溺れたとしても、留学から引き戻し、勾留し、捏造した根拠で粛清し、才能溢れる若者の人生を奪い、家族を引き裂き、新しい社会建設の夢すら失わせた国家権力に対して厳しく責任を問うべきことである。こういう話題の後には、D. パグマドラムの社会的な活動、つまり、モンゴルの女性のために何と闘い、どうしようとしたのか、という社会的な活動にまで話が深まらない。D. ナツァグドルジはその著作によって評価されてきたにも関わらず、である。D. パグマドラムの再評価のムードが、再び、都合のいいヒロイン像を作り上げることで、彼女を再び冒犯することがないように、扱いやすいヒロイン像を作って、彼女を消費する資本主義経済に組み込まれないことを祈るばかりだ。

このようなプライベートな話題は、E. チメッドツェレンが問題にせず、記述しなかった内容である。E. チメッドツェレンは、あくまでも、D. パグマドラムがモンゴルの女性のために何をした人であったか、その言葉と行動の記録と記憶を元に、社会的な存在としてのD. パグマドラムを歴史書に刻印したのであった。その態度を引き継いで行こうではありませんか。

さて、今後の課題として、婦人教育部(のちのモンゴル女性連盟)が、女性に関わるどんな問題をどのように解決してきたか、という視点から、社会主義の時代にどのように進展し、どのような限界があったのか、資本主義の時代にどのように後退し、また蘇らせたのか。モンゴルの女性たちがこれからどのように生きるかを考える根拠の1つとなるよう、再評価の任務を果たしたいと思う。

19) この番組でE. チメッドツェレンが取り上げられ、その内容については、筆者が「アジア女性現代史」15号に「モンゴル国の番組「100年の100人の女性たち」の中のE. チメッドツェレン」にまとめている。

おわりに

党の50周年記念に党の建設史観にもとづく『モンゴル人民共和国における女性を社会的抑圧から解放した歴史的経験』という本を書くにあたって、E. チメッドツェレンは、党によって粛清され、名誉回復もされていない D. パグマドラムの社会活動を記述することにより、本の題名通りの『女性解放』を実現しようとしたのではないかと筆者は考えている。

今回、誌面の都合上、婦人教育部(モンゴル女性連盟)の活動の内容がわかる文書、文学作品などにおける D. パグマドラムの描き方、E. チメッドツェレンの家族の三世代に渡る歴史などを書くことはできなかった。また、ボグトグロフという強制結婚については、これからの大きな研究課題である。

社会主義時代に党が認めた「正史」である“БҮГД НАЙРАМДАХ МОНГОЛ АРД УЛСЫН ТҮҮХ”『モンゴル人民共和国史』の第三巻は、近現代史がまとめられているが、たとえば、革命期から1940年代までに登場する女性はたった2人だけである。1人は革命で刃を向けられる側のボグド・ハーン(ボグド・エヘン・ダギナ)、もう1人は革命の任務を遂行し「反革命」勢力の抵抗によって命を落とした T. ボルである。それに対し、E. チメッドツェレンの書いた『女性解放史』には、同じ時代に個人の名前を持った女性が約140人²⁰⁾が登場し、個々の女性が革命に、その後の近代社会の建設にどのように関わったのか、ということを書いた女性史である。E. チメッドツェレンは、D. パグマドラムの次には、同じく粛清の対象となった政治家 B. ゲンセンについて記述している。この小論を読んで、E. チメッドツェレンの『女性解放史』に記述された女性たちに興味を持つ人が増えることを願って、一旦筆を置くことにしよう。

参考文献

〈日本語文献〉

- 今岡良子(2005)「モンゴル国における女性研究の動向と研究紹介」『アジア現代女性史』1号。
- (2014)「モンゴルの女性史家 E. チメッドツェレンの履歴と著作リスト」『アジア現代女性史』9号。
- (2019)「E. チメッドツェレンの最後の著書『モンゴル女性の知識の伝統と進歩の諸問題』を再考する」『アジア現代女性史』13号。
- (2021)「2つの三世代の「秘史」— E. チメッドツェレンの「三世代の歴史」と息子の J. ボルの「私の母思い出」」『アジア現代女性史』14号。
- (2022)「モンゴル国の番組「100年の100人の女性たち」の中の E. チメッドツェレン」『アジア現代女性史』15号。
- (2023)「E. チメッドツェレンが D. パグマドラムを記述した意義」『アジア現代女性史』16号, PP.8-31。
- 岡田和行(1983)「ダシドルジーン・ナツァグドルジと「わが故郷」」、『東京外国語大学論集』第33号。
- (1991)「反逆の詩人レンチニー・チョイノム」『東京外国語大学論集』第42号。
- (2006)「ナツァグドルジの1932年の投獄と獄中詩について」『東京外国語大学論集』第72号。
- (2009)「ツェンディーン・ダムディンスレンと「知識人の迷妄」をめぐって」『東京外国語大学論集』第79号。

20) 『女性解放史』の第2章に登場する女性の名前は141人であるが、овог(親のファーストネーム)が書いていない人については、重複カウントしたことも考えられる。

小貫雅男 (1993)『モンゴル現代史』山川出版。

芝山 豊 (2005)「D. ナツアグドルジ「黒い岩」をめぐる」『モンゴル研究』22号。

(2007)「D・ナツアグドルジの手稿「黒い岩」のデジタル解析」『モンゴル研究』24号。

芝山豊、岡田和行編 (2003)、『モンゴル文学への誘い』明石書店。

南満洲鉄道株式会社庶務部調査課 編 (1927)『外蒙共和国』大阪毎日新聞社。

〈モンゴル語文献〉

О.Батсайхан(2016)“Монголчууд:1924-1959 онд” АДМОН принтинг.

(О. Батсайхан (2016)『モンゴル人たち：1924-1959年』アドモン社)

БНМАУын Шинжлэх Ухааны Академи Түүхийн хүрээлэн (1969)“БҮГД НАЙРАМДАХ МОНГОЛ АРД УЛСЫН ТҮҮХ”:боть3.

(モンゴル人民共和国科学アカデミー歴史研究所 (1969)『モンゴル人民共和国史』第3巻)

БНМАУын Шинжлэх Ухааны Академи Түүхийн хүрээлэн (2004) Монгол улсын түүх : боть 5. 20-р зуун.

(モンゴル国科学アカデミー歴史研究所 (2004)『モンゴルの歴史』第5巻)

Ч.Дашдаваа(2008)“Монгол дахь төрийн эргэлт”,Бемби сан.

(Ch. ダシダワー『モンゴルに置けるクーデター』)

Н.Гэрэлсүрэн,Д.Алтай (2008)“Монголын эмэгтэйчүүдийн байгууллага”,Улаанбаатар.

(N. ゲレルスレン、D. アルタイ (2008)『モンゴルの女性組織』、ウランバートル)

Монголын эмэгтэйчүүдийн холбоо(2018)“Манлайллын түүхээ”,УБ.

(モンゴル女性連盟 (2018)『先駆者達の実績』ウランバートル)

С.Мөнхжаргал,Д.Цэдэв,С.Лувсангомбо,Т.Жадамбаа,Я.Шархүү (2007)Улаанбаатар:Хотын хөгжил,АДМОН принтинг.)

(S. ムンフジャルガル他 (2007)『ウランバートル：都市の発展』アドモン社)

Х.Мэндсайхан(2021) “Пагмадулам”,Мөнхний Үсэг хэвлэлийн газар.

(Kh. Мэндсайхан (2021)『パゲマドラム』、永遠の文字印刷所)

Д.Нямаа(2009)“Их Д.Нацагдоржийн гэргий Пагмадуламын амьдрал,аж төрөл”,УБ.

(D. ニャマー (2009)『文豪ナツアグドルジの妻パゲマドラムの人生』)

Б.Содном(2008-2009)“Д.Нацагдорж судал”,УБ.

(B. ソドノム (2008-2009)「D. ナツアグドルジ研究」ウランバートル)

Э.Чимэдцэрэн(1973)“БНМАУ-д ЭМЭГТЭЙЧҮҮДИЙГ НИЙГМИЙН ДАРЛАЛААС ЧӨЛӨӨЛСӨН ТҮҮХЭН ТҮРШЛАГА”,УБ.)

(E. チメッドツェレン (1973)『モンゴル人民共和国における女性を社会的抑圧から解放した歴史的経験』)

Э.Чимэдцэрэн(1983)“Монголын эмэгтэйчүүдийн мэдлэгийн уламжлал дэвшлийн зарим асуудал” УБ.

(E. チメッドツェレン (1983)『モンゴル女性の知識の伝統と進歩の諸問題』)

〈動画資料〉 制作年順

‘Саруул талын ерөөл’ (芸術映画‘輝く草原の祝詞’) 1984年制作。監督 R. ドルジпарам、D. ナツアグドルジ役：

D. Гурсед、D. パゲマドラム役：S. Салантヤー

<https://www.youtube.com/watch?v=TFERuWDVTTg&t=1010s>

‘Их Нацагдорж’ (テレビドラマ『文豪ナツアグドルジ』 2007年に国営放送のカラー放送40周年記念番組として制作された。監督 G. ジグジドスレン、D. ナツアグドルジ役：Sh. Бяньбатцогт、D. パゲマドラム役： B. Батсомия

<https://www.youtube.com/watch?v=5z1GqRyt0IU>

‘Д.Пагмадулам. Бүрхэг шөнийн тэргэл саран’ (教養番組『D. パグマドラム。曇った夜空の月』) 2016年に放送

<https://www.youtube.com/watch?v=EuQk79u-O54&t=2029s>

“Бүрхэг шөнийн тэргэл саран” 「曇った夜空の月」

<<http://time.mn/kOn.html>> 2016年11月17日付 タイム紙。

‘Харанхуй хад’ (芸術映画「黒い岩」監督 B. ツォグトバヤル、D. ナツァグドルジ役 :G. バヤルフー、D. パグマドラム役 :E. プレブジャルガル 2016年劇場公開。

<https://www.youtube.com/watch?v=-tlXsQBaz04>

“Харанхуй хад” уран сайхны кино нээлтээ хийнэ (芸術映画「黒い岩」の上映始まる。)

<https://gogo.mn/r/196458> 2016年11月17日。

‘МОНГОЛ АРДЫН СУУТ’ D. ナツァグドルジ役 -Ts. ツェレンドルジ、D. パグマドラム役 M. エンフザヤ 2016年11月9日。

Д.Нацагдоржийн сүүлчийн шөнийг “Монгол ардын суут” жүжгээр өгүүлнэ (D. ナツァグドルジの最後の夜を演劇「モンゴル人民の天才」で見せる。)

<https://news.mn/r/749934/> 2016年11月9日 Montsame 紙。

‘Зууны 100 эмэгтэйчүүд’ (教養番組「モンゴルの100年の歴史を創った100人の女性たち」)「光を見て、光り輝いた純白の真珠 D. パグマドラム」 2021年放送。

<https://www.youtube.com/watch?v=BseJd2voId4>

“Зууны 100 эмэгтэй” дүрэм (モンゴルの100年の歴史を作った100人の女性たちを選ぶルール)

<http://100women.mn/rule> 第一段階は2018年5月27日～7月5日まで、第二段階は2018年9月5日～2018年12月5日まで。

“Зууны 100 эмэгтэй” номын нээлт болов (『モンゴルの100年の歴史を作った100人の女性たち』の出版記念会が行われた。)

<<https://news.zindaa.mn/3afy>> 2020年6月22日 Zindaa.

<インターネット上の情報>

Анхны Үндсэн хууль батлалцсан Эмэгтэй Д. Пагмадуламыг цагаатгалаа。(最初の憲法の制定に加わった女性 D. パグマドラムの名誉を回復した。)

<<https://ardmedee.com/24150/>> 2021.12.22日付 アルド・メデー紙。

Д.Нацагдоржийн гэргий Д.Пагмадуламын эмгэнэлт тавилан。(D. ナツァグドルジの妻 D. パグマドラムの悲劇的な運命)

<https://www.tolgoilogch.mn/_1nf22aqnw3> 日付不明 歴史紙。

Д.Пагмадулам Монголын бүсгүйчүүдийг эрх чөлөө рүү хөтлөгчдийн нэг: Х.Мэндсайхан (Kh. メンドサイハン : D. パグマドラムはモンゴル女性に解放するリーダーの一人である。)

<<https://amjilt.news/32855>> 2020年3月12日付 アムジルト紙。

Зохиолч Д.Нацагдорж, Д.Пагмадулам нарыг тагнуулын ажилд ашигласан уу (作家 D. ナツァグドルジ、D. パグマドラムらを諜報員として利用したのか。)

<<http://time.mn/o3Q.html>> 2020年2月27日付 タイム紙。

Их зохиолч Д.Нацагдорж, түүний гэргий Д.Пагмадулам нарын хөшөөг бүтээв (偉大なる作家 D. ナツァグドルジ、その妻 D. パグマドラムの銅像を建立)

<<https://www.montsame.mn/jp/read/231064>> MONTSAME 2020年7月10日付 モンツァメ紙。

"Миний аав Д.Нацагдоржийн төлөө бүх амьдралаа зориулсан" Э. АРИУНАА

<<https://news.mn/r/1999851/>> 2018-09-10.

1924 он: Монголын Эмэгтэйчүүдийн Холбоо байгуулагдсан түүх (1924年:モンゴル女性連盟を設立した歴史)

<<https://www.sonin.mn/news/culture/123359>>2021年8月2日付 ソニン紙(ゾーニー・メデー紙)。

Таван хэлтэй, өндөр боловсролтой, брэнд хувцаслалттай Д.Пагмадулам бол Хүрээний анхны сэхээтэн бүсгүй байв(Эх сурвалж: Enkhbat Daajin, “Зууны мэдээ” сонин)

< <https://yourhandbeauty.com/archives/7569> >

“Шанзны эгшигнээс тасарсан дусал хар нулимс” :П.Бадарч (P. バダルチ「シャンズ(三味線)の音色から溢れた黒い涙)

<http://soronzon.blogspot.com/2009/07/blog-post_18.html> 2009年7月18日付けソロンゾン紙。

<<http://dursamj.mn/gadaad-medee/16423-.html>>

(いまおか りょうこ)